

平成29年度第2回教育課程編成委員会 議事録

【日時】平成29年11月12日（日）14:00～15:10

【会場】こころ医療福祉専門学校 3階 講堂（柔道場）

【委員】出席：大木田治夫，志岐浩二，有村俊男，西原美由子（松尾峯子代理）

松本修，石原義大，諸岡辰巳，川崎和幸，下村雅樹

藤原善行，藤村幸一，田川祐治，野口大樹，高島恵理子，川口進一郎

久保義哲，古里尚也，山邊芳久，高橋美如

欠席：松尾峯子，清川慎介，中嶋孝行，沖永さとみ，松尾和香，松川征平

（敬称略）

1 開会のことば（司会 副校長 藤村幸一）

本会の開会目的の説明を行う。

2 委員の紹介（司会 副校長 藤村幸一）

各委員の紹介を行う。

3 校長挨拶（校長 藤原善行）

（1）本会は，次の3つの視点で開催したい

ア 平成29年度前期学科運営について

イ 平成29年度後期学科運営について

ウ 平成30年度学科運営について

（2）岩永学園グループの現状報告

ア 壱岐の現状について

こころ医療福祉専門壱岐校は，入学者14名でスタートし，現在，大きな問題なく，順調である。特別養護老人ホーム壱岐こころは，移転新築工事に向けて，先日，入札が完了した。

イ 介護付き有料老人ホーム「こころのしろ」について

校内に併設している「有料介護付き老人ホームこころのしろ」の工事が8月に完了し，9月29日に開設し，入所者は現在8名である。

ウ 平成30年度カリキュラム

- (ア) 理学療法科修業年限変更
- (イ) 柔道整復科カリキュラム変更
- (ウ) 健康鍼灸科カリキュラム変更

平成30年度入学者から理学療法科は、4年課程から3年課程に移行する。昨年度は募集停止していたため、入学者減少を心配したが、現在25名の希望者がいる。柔道整復科、健康鍼灸科では、新カリキュラムの充実した実施を目指し、準備している。

4 理学療法科（学科長 古里尚也）

(1) 臨床実習の実習費について

(古里) 臨床実習費の調整を行ったが、他の病院からはそのような意見はなかったと見送りになったが、九州内の学校について調べてはどうかと御意見をいただいたため、確認し、御報告させていただく。

(2) 新カリキュラムについて

(古里) 県医療政策課への変更承認申請提出は完了している。新カリキュラムは、専門知識だけではなく、施設で働くことを想定して授業を組んでいる。地域包括システムを考慮し、地域サロンや学会に参加するようにしている。

(志岐) 診療ガイドラインについて、授業や臨床実習で取り入れて欲しい。そうすることにより、臨床実習や国家試験対策に役立つと考えられる。また、専門理学療法士を申請する卒業生が少ないため、自己啓発をするように指導をお願いします。

(3) 国家試験対策について

(古里) 1年次から国家試験対策を行い、基礎学力の積み上げを行っている。今年国家試験を受ける4年生が1年次から国家試験対策を行った初めての学年となる。

(4) 臨床実習について

(古里) 今後、臨床実習にCCSを導入する予定であり、現在調整を行っている。

(大木田) 実習生とコミュニケーションを取ろうとしているが、難しい場合もある。実習中に学校の先生方が頻繁に来ていただけると学生も心強いと思う。

(古里) 巡回を行っているが、訪問を好まない施設もあるため、意見を取り入れ今後の臨床実習に反映したい。

5 介護福祉科

(1) 2年生介護実習全課程終了について

(久保) 学生は、職員の連携・コミュニケーションが介護サービスを左右することを学んだようだ。今後は、社会人として、介護福祉士として、就職内定先の理念等を意識させながら学ばせたい。

(2) 今後の課題について

ア 自分本位ではなく他者の状況に気付く力、考察を深める力、努力を惜しまない力を養う教育方法の確立

イ 実習指導者との連携をより一層深めていくこと

(久保) 留学生を含め、多様な学生が増えているため、生活指導の強化も必要となる。事前の学生情報の提供と共有、実習中の密な情報交換、レポートの充実を図り、各事業所の皆様と共に、より即戦力成り得る人材育成をしていきたいと考えている。

(西原) レクリエーションについては、機能訓練の理由を説明できるように学校での基本をしっかりと身に着けることが大事である。

(久保) 学生教育のために、教員の学びも大切だと考える。

(藤村) 介護の仕事は、外の間人がイメージする以上に「考えて行動する」ことが求められる職場であるように感じる。

(西原) 色々な情報集めが必要である。提供した情報で振り向いてくれなかったり、意外な情報が盛り上がったりする。

(藤原) 介護をすることは、自分の人生だけでなく、入所者の人生を背負うという気持ちが必要である。

(西原) 業務だけでなく、心で利用者様と関わっていかなければいけない。

6 柔道整復科

(1) 新カリキュラムについて

(藤村) 柔道整復師養成施設の時間数、単位数が増加する。関係団体に助言をいただき、県医療政策課から承認をいただいた。来年は、現行のカリキュラムと並行して行う。

(松本) 長崎県柔道整復師会として、12月9日講習会を行う。できれば参加し、現状を学び、様々な先生と繋がりを持って欲しい。カリキュラムの変更に伴い、臨床実習施設の実習指導者講習会はどうするのか、県柔整師会にできることを考えたい。

(藤村) 実習に関しては、早くて1年後期から始まるが、現段階では、詳細は決めていない。

(松本) 何を学ばせ、どのように指導すればよいのか。患者に触れさせることは出来ないため、どのように実習させるか県柔整師会で考えたい。

(石原) 実務にかかる実習をさせたいが、あいさつ等基本的なことから教えるとなると時間が足りない。自分に合う人とは話せるが、合わない人と話せないでは困るため、基本的なコミュニケーションなどは、学校の授業で教えて実習に送り出して欲しい。

(藤村) 可能な限り余計な負担を軽減したいと思っている。

7 健康鍼灸科

(1) 治療体験報告について

(高橋) 治療体験の実習が全て終了した。今年も鍼灸師会の先生に治療していただき、勉強させていただいた。今後も市民講座を始め、ボランティアに参加させたい。また、訪問診療に関しては実務的なものを加え、授業を行う予定だ。

(諸岡) 実際の現場を見ていただきたいために、臨床実習を設けている。過度な保険請求などが問題となっていることが多い。医師の同意書があれば保険で治療できるため、我々も正しく指導したいと考えている。臨床実習施設の確保が課題と思っているが、良いものを作り上げるために1つ1つクリアし、はり・きゅうが世間の健康作りに貢献できればと考えている。

(川崎) 学生時代に様々な鍼灸体験が出来ることは、学生にとって、有益だと思う。

(高橋) 保険取扱いについて、大きな枠組みとしては話すが、不明な点もあるため、今後教員も含め勉強したい。

7 スポーツセラピスト科

(1) 今後の授業について

(久保) 平成30年度に閉科するため、現場の実情を伺って、日頃の授業の中で活かすという趣旨で分科会を行った。その中で、フィットネス分野では運動指導以外の業務が多いという話題が出た。

(下村) 在学中から運動指導以外に接客や掃除など雑務があることを理解させて欲しい。

(久保) 社会に出た際の大変な部分も伝え、少々の辛いことで諦めることがないよう働きかけをしていきたい。

(下村) 運動指導者よりも運動エクササイズ効果があるものとして注目された。大切なのは人と人との繋がりである。キャリアデザインの中で、挨拶、接客について学んでほしい。スポーツクラブに就職しても雑務は多いが、コミュニケーションが基本である。

(藤村) 資格を取らせるだけでなく、現場でコミュニケーションを強く意識して人材育成に努めたい。

8 その他

(1) 平成30年度学生募集について

(石原) 柔道整復科は、カリキュラム変更に伴い授業時間が増加するが、学生募集に影響はあるか。

(久保) 現在は、夜間部が厳しい状況ではある。夜間部の授業終了時間は、22時のため、働きながら学校に通うのは、非常に大変である。そのため、昼間部入学への検討する入学希望者もいる。

(藤村) 年明けてからも社会人へアピールし、入学者を増やしたい。